

1月9日(火)

主よ、耳を傾けてください

聖書朗読 詩篇 86篇

しかし主よ。あなたは、あわれみ深く、情け深い神。怒るのにおそく、恵みとまことに富んでおられます。 詩篇 86:15

ダビデは、身の危険にさらされたとき、戦うには自分は無力であると感じましたが、主の三つの励ましを見出します。私たちもそうでしょう。

まず、ダビデは、神様のご契約が確固たるものであると知っており、自らを『神を恐れる者』(2節)としています。それは尊大な思いから発せられたものではなく、自分が主に属する者であるという信仰の告白でした。ダビデは詩篇で14の私的な願いをしています。彼には神様との契約関係があったからです。私たちにもキリストとの契約関係があるために、私たちが祈るとき、神様は願いを聞いてくださると信じます。(ピリピ 4:6)

次に、ダビデは神様のご性質は不変であることを知っていました。ダビデは、『主よ。神々のうちで、あなたに並ぶ者はな』い(8節)と言っています。これは神様を真に知っている者の告白です。ユダの荒野での10年に及ぶ亡命の間、ダビデは神様のご性質と、神様が民のうちにかくに働いてくださるかをさらに知ることになりました。ダビデは、今、置かれている状況がいかに困難であっても、神様が彼を救い出してくださいと知っていました。

そして最後に、ダビデは、彼の敵が自らを誇り、神様を信じていないことを知っていました。そのためダビデは、彼らに目を向けるのではなく、彼を生涯、助け導いてくださる主を見上げました。15節では、彼に示された神様の愛と慈しみを告白しています。ダビデは、自分が救い出されることが、神様に栄光をもたらすように望みました。

讚美歌 301

祈り 親愛なる主よ、艱難(かんなん)に遭うとき、あなた様がともにおられ、私たちを助けてくださることを信じられますように。ダビデの信仰の手本を示してください感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

ミシシッピ州 オリーブ ブランチ / エディ C・ルイス

1月10日(水)

必要とする時あなたはどこに

聖書朗読 詩篇 94:1~11

わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。 ヘブル 13:5

詩篇には嘆きの言葉が多く見られます。詩篇94篇で、ダビデは、彼の歩みにおける神様のご臨在に対して、やや疑いを抱いていることを打ち明けています。彼は正しいことをしていたので、敵は神によって打ち負かされるはずだと思っていました。ところが、敵は勝ちを得て、一方、彼は逃げなければならない状況にありました。ダビデは、神はもはや自分に耳を傾けておられないと思い、『いつまで、悪者どもは勝ち誇るのでしょうか。』(詩 94:3)と神に問います。

私たちの人生でも、正しいことをしているのに報われず、不正を行う者たちが恵まれていると思える時があるでしょう。けれども、私たちは正しいことを続けるべきです。

周囲に認められず報われないと知りながらも、正しい事をするのは難しいことです。しかし、真の人柄や誠実さというものは、正しい行いに現れるものであって、他者の期待に応えることや、他者の態度に左右されるものではありません。何故でしょうか。誠実さというものは心から現れるものであって、状況に対する反応ではないからです。

讚美歌 主は生きておられる Because He lives

祈り 親愛なる主よ。物事が思うように進まないときも、あなた様に信頼させてください。自分の弱さばかり見るのではなく、自分の理解を超えた先を見る目をお与えください。イエス様のお名前によって。アーメン。

ミズーリ州 セイント チャールズ
ジェリー & リン・ジョーンズ

1月11日(木)

主の愛を歌う

聖書朗読 詩篇 96篇

神よ。私の心はゆるぎません。私の心はゆるぎません。

私は歌い、ほめ歌を歌いましょう。

詩篇 57:7

私の人生において、教会の音楽はとても大きな存在です。私は、家族とともに食卓を囲んでよく讃美歌を歌ったものです。幼い頃の記憶として、父が四重奏で歌った見事な低音の歌声が耳に残っています。私は、自分の育った教会で、音楽の基礎を学びました。私たちのイエス様に対する愛は、例えば、以下のような、なつかしい信仰の歌の歌詞に要約されています。

《「われに來よ」とイエス君は 優しき声を なれにかけて》 聖歌 409

《愛なり愛なり 救いうるは愛なり》 新聖歌 222

《いさおなきわれを 血をもてあがない》 讃美歌 271

《主によりてあがなわる わが身の幸はみな主にあり》 讃美歌 514

《岩なるイエスはわが身を みもとに引き上げ》 聖歌 506

これら以外にも、このリストに加えられる讃美歌が沢山あると思いますが、よく知られたメロディーを聞いただけで歌詞がよみがえります。かつて、ある大きな集会でミュージシャンが《今日まで守られ来たりしわが身》(聖歌 292)を歌うのを聞いたことがあります。その聖歌の歌詞で集会に集まった全ての人の心が満たされました。

私たちの創造主は、民をご自身の元へ引き寄せる音楽の力をご存知です。何世紀にも亘り、神様は、歌を作る者たちを鼓舞して聖なる讃美歌を作らせられました。十字架に掛けられる直前にも、イエス様とその弟子たちは讃美歌を歌いました。

讃美歌 312

祈り 親愛なる主よ。あなた様の偉大さと御子のいつくしみを、私たちが心のうちに覚え続けるために、讃美歌という素晴らしい手段を与えてくださり感謝します。私たちがあなた様をほめ歌うとき、どうかお聞きください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アマリロ

ジーン・シェルバーン

1月12日(金)

礼拝の習慣

聖書朗読 詩篇 100篇

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、いのちのこぼをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです。

ピリピ 2:14~16

ピリピ 2章14~15節は、解釈や説明は殆ど要らないでしょう。『すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、…世の光として輝くためです。』私たちは誰でもつぶやきたくある時があるでしょう。けれども、ちょっとしたつぶやきを止めることが出来ずにいると、“愚痴ばかり言う人”になってしまいます。

つぶやきを止める確実な方法、それは礼拝です。私たちは日々あるいは毎週、礼拝を捧げますが、いつ自分が真に主を礼拝する者となったと実感できるでしょうか。詩篇100篇の行動指示語を見てください。『喜びの声をあげよ。喜びをもって主に仕えよ。知れ、主こそ神。私たちは主のもの。感謝しつつ、賛美しつつ、その大庭に、入れ。』とあり、次に神様のお約束に目を移し、『主はいつくしみ深く、その恵みはとこしえまで、その真実は代々に至る。』とあります。私たちは、目にするものと習慣によって、今の自分となっていくのです。

自分勝手にやっていたら、呟きの人となりかねません。でも、私たちには全宇宙の神を礼拝する機会が与えられています。イエス様が、ご自身にのみある新しい命へと、私たちを招いてくださったからです。神様を日々、礼拝する時、喜びを見出すことができますように。そして、日曜日には、神の家族と共にその喜びを分かち合ひましょう。

聖歌 424

祈り 主よ、私たちがつぶやき、不平を言っている時、その自分に気付かせてください。神を礼拝する者とされ、あなた様のために輝くことができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

オレゴン州 ポートランド

グレン・アウス

1月13日(土)

最善の選択

聖書朗読 詩篇 101篇

あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことを心にたくわえました。

詩篇 119:11

私は、自分に多くの影響を与えてくれた人たちから何度も、人っていうのは、自分が選んで付き合っている友だちによって形成されるものだとか聞かされてきました。尊敬する人の言動、彼らが持っている曲げられない価値観を見たり聞いたりすることは、私たちに多大な影響を与えるものです。

ダビデは、神様が彼に求められる生き方を、自分自身の意志では決してなし得ないと知っていました。また、人生を通じて常に遭遇する様々な危険や誘惑を避けるために、神様のみことばを必要としていました。ダビデには、神様が彼にそうあってほしいと望まれることを信じ、それに基づいて生きたいという道徳的規範がありました。

何が正しいかを知ることと、正しいことをしようと固く決意することは違います。私たちは、常にそのような選択に迫られます。私たちは、この罪深い世に生きているという事実からは逃れることは出来ません。しかし、神様のみこころを求め、それがどのように私たちの選択に影響を与えるかを理解し、そして、神様が備えられた、私たちの成すべきことを選び取るという機会が、私たちには与えられています。

讚美歌21 447

祈り 親愛なる主よ。私たちが直面するあらゆる場面で、あなた様の力、導き、そして、みことばを求めさせてください。あなた様をまず見上げ、賢い選択ができますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

ニューメキシコ州 グランツ

ランディ・ロバーツ

1月14日(日)

今日、信仰の成長を

聖書朗読 詩篇 104:1~14

わがたましいよ。主をほめたたえよ。わが神、主よ。あなたはまことに偉大な方。あなたは尊厳と威光を身にまとっておられます。あなたは光を衣のように着、天を、幕のように広げておられます。水の中にご自分の高殿の梁を置き、雲をご自分の車とし、

風の翼に乗って歩かれます。…わがたましいよ。主をほめたたえよ。ハレルヤ。

詩篇 104:1~3、35b

詩篇104~106篇は、ただ『ダビデによる』と前書きされた高らかな賛美であり、すべてを統(す)べ治められるお方である神様を強調しています。すなわち、神の遍在と全能(104篇)、神のなされた事(105篇)、神の徳である、慈しみ、義、赦し(106篇)について記されています。

簡単に言ってしまうと、みことば通りに成長するのは難しいです。今日あるいは明日、こうした聖句を読むことから一日を始めてみましょう。そして、繰り返し読んでください。信仰は成長し、霊的にも引き上げられるでしょう。主をほめたたえることで、あなたの一日が満たされたものとなるでしょう。

この世には、神との絶え間ない会話ほど甘くて楽しい人生はない。

——御復活のラウレンシオ(*編注)

*編注:御復活のラウレンシオは、カルメル会の修道士。『神の臨在の実践』、『神の現存の体験』の著書で知られる。1614-1691

讚美歌 270

祈り お父様、今、そしてこれから先も、私たちのすべてをあなた様の御手に委ねます。信頼できるお方は、あなた様以外にはおりません。あなた様が完全であられることをほめたたえます。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 スプリング ヒル

デール・ジェンキンス